

# 神宮外苑の歴史を継承して「新しい伝統」を再発見し、明るく豊かな杜に包まれたスタジアムを創ります

地域の防災に役立ち、地球全体の環境保存に貢献するスタジアム

## 21世紀の「新しい伝統」

明治神宮には、日本古来の伝統と近代文化の統一をめざして「新しい伝統」を創造しようとした、近代日本の理想が見事に体現されています。明治神宮創設100年を経て、新たに創られるスタジアムは、このような神宮の歴史と現代技術を融合した、21世紀にふさわしい更なる「新しい伝統」の創出をめざします。

## 1 「新しい伝統」の再現

外苑の歴史を象徴する「新しい伝統」を再発見すべく、豊かに育った杜を大切にしつつ、最先端の技術を加えた「自然に開かれた日本らしいスタジアム」を創ります。▶27/45

### 建物概要

客席数	68,052席
建築面積	66,203㎡
延床面積	185,673㎡
建ぺい率	58.57%
容積率	135.45%
階数	地下2階、地上3階
建物高さ	54.3m(外苑西通りTP+24mより)
構造	屋根：鉄骨造 スタンド：木造柱+RC造 中間層免震

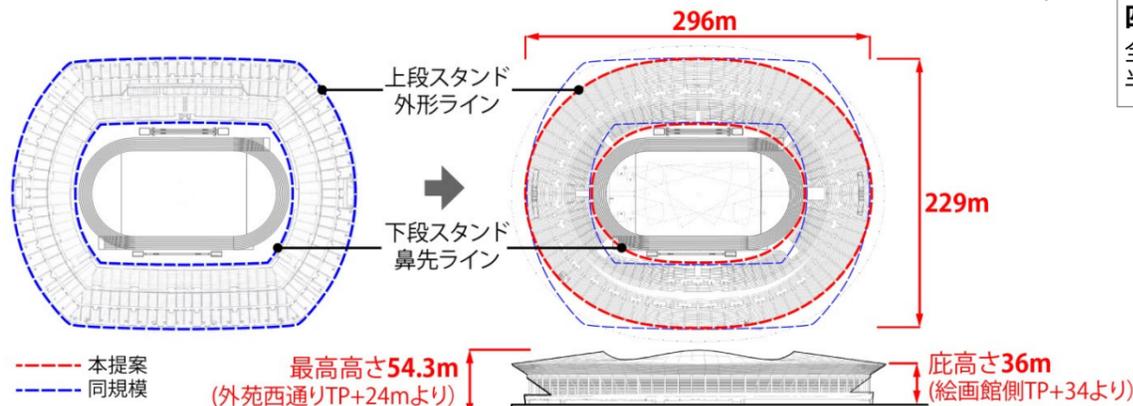


## 2 生物多様性を育む杜

- ① 唱歌「春の小川」を生んだ渋谷川を復活し、水辺や田んぼ、里山、さくら広場、台地の森、森の広場、もみじ谷など四季の変化に富んだ景観を形成し、多様な生き物の生息環境を育む杜を創ります。▶31/45
- ② すべての人が四季折々の景観を日常的に楽しむことのできる杜を創り、環境との調和を図ります。▶30/45
- ③ 地域の火災延焼を防ぐ常緑広葉樹を含んだ混交樹林の森を育成します。▶30, 31/45

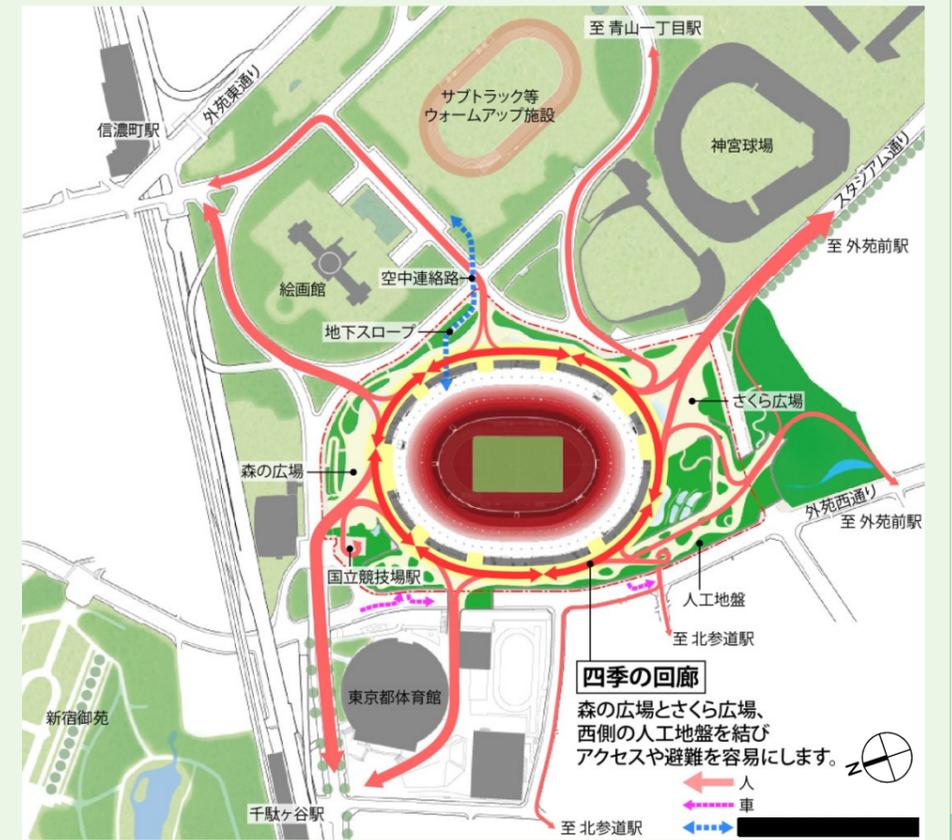
## 3 エレガントでコンパクトなスタジアム

エレガントな楕円形平面、縁側のような開放的な「四季の回廊」、低く抑えた底によって、周辺環境に対して圧迫感を軽減した、コンパクトで機能的なスタジアムを創ります。▶基本図面 2, 7/12



## 4 人の流れをコントロールし、防災拠点となる「四季の回廊」

- ① 外苑の杜に接する「四季の回廊」によって、あらゆる方向からの人の流れを妨げることなく、アクセスも容易で分かりやすい、ユニバーサルデザインのスタジアムを実現します。▶25, 39/45
- ② 「四季の回廊」は雨天でも利用可能なランニングや散歩コースとして、すべての人々に日常的に開放されます。健康長寿のための快適な日ごとの運動スペースを提供します。▶30, 31, 39/45
- ③ 外苑にゆとりの開放空間をもたらす「四季の回廊」は、災害時にも外苑地区の周辺施設をつなぎ、地域の防災拠点となるスタジアムをつくります。▶40/45



# 純木製の列柱に浮かぶ白磁のスタジアムを創ります

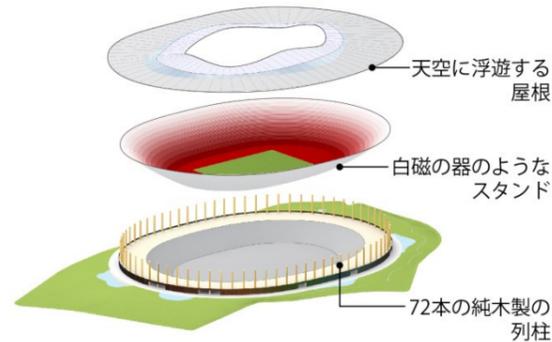
周辺環境と調和し最先端の技術を結集し、我が国の気候・風土・伝統を現代的に表現するスタジアム



72本の純木製の列柱と中間層免震によって、浮遊する屋根と清々しいスタンドを実現します

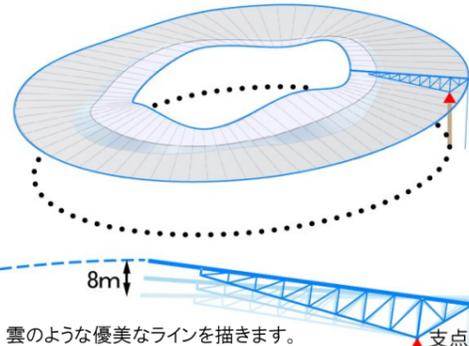
## 1 最先端技術を結集した純木製の柱で支えるスタジアム

- ① 縄文遺跡や神社を想起させる72本の純木製の列柱がスタンドを囲み、力強い日本を象徴します。▶28/45
- ② 既に耐火認定を得ている「**耐火木造柱**」によって、純木製の柱を実現します。▶37/45



## 2 同一断面の天秤トラスで作りやすい屋根

一定のリズムで上下する同一断面の天秤トラスを、直線材で繋げることによって、施工が容易な屋根構造とし、工期の短縮とコストの削減を実現します。▶34, 35/45

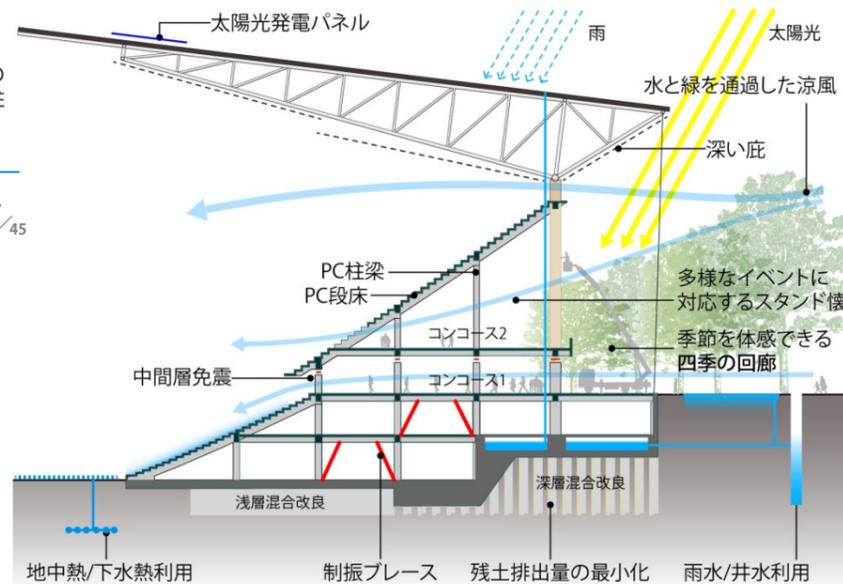


## 3 自然エネルギーを取り込む日本の伝統建築の再現

- ① 水と緑の間を通過した涼風をスタジアム内部に取り込み、アスリートにも観客にも快適でさわやかな内部環境を生み出します。▶27, 30, 32, 33/45
- ② 自然エネルギーを最大限に活用した地球環境にやさしいスタジアムとし、CASBEE Sクラスを達成します。▶32, 33/45

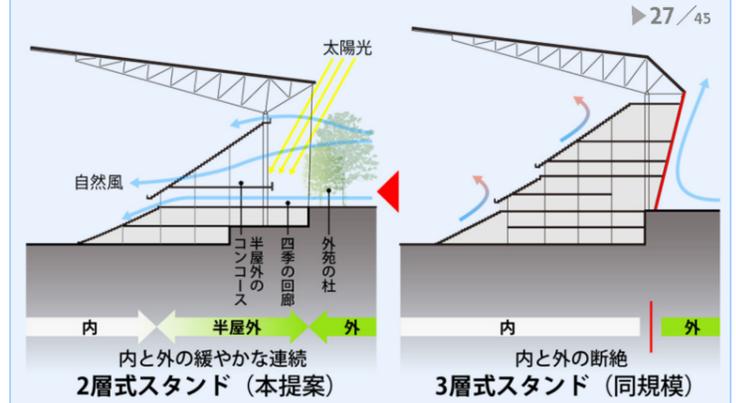
## 4 維持管理費を抑えるコンコースとスタンド

シンプルな構成、コンコースの半屋外化、メンテナンスフリーのプレキャストコンクリート材の多用によって維持管理を容易にし、費用の軽減に努めます。▶23, 24/45



## 2層式スタンドで内外の連続性を実現する壁のないスタジアム

縁側のような「四季の回廊」が杜とスタジアム内部を結びます。▶27/45

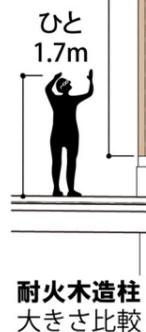


## 5 大きな懐のあるスタンド

スタンド下に大きな半屋外のコンコースの確保、庭園に面したVIPラウンジの将来リニューアル、「四季の回廊」に面したランニングステーションの設置などによって、大会後に日常利用ができる施設への可変性に配慮しています。▶40/45

## 6 中間層免震による軽快で安全なスタジアム

- ① 傾斜の大きな上段スタンドとVIPフロアを免震とし、下段スタンドを制振とすることで、建物全体の揺れを小さく抑え、災害時に生じる観客の混乱と不安を軽減します。▶35/45
- ② 中間層免震による構造部材の縮減化を図り、軽やかな屋根と清々しいスタンドを実現します。▶34/45
- ③ 中間層免震によって地震から建物を守り、さらに防災センター、発電機、防災備蓄倉庫などの最新の防災機能を備えた安全なスタジアムとします。▶40/45



屋根先端を8m上下させ、雲のような優美なラインを描きます。

# 最高のユニバーサルデザインで世界に感動を与えるスタジアムを創ります

人にやさしく、誰もが安心して集い、競技を楽しむことのできるスタジアム

## 1 アスリートの躍動を観客に伝えるために

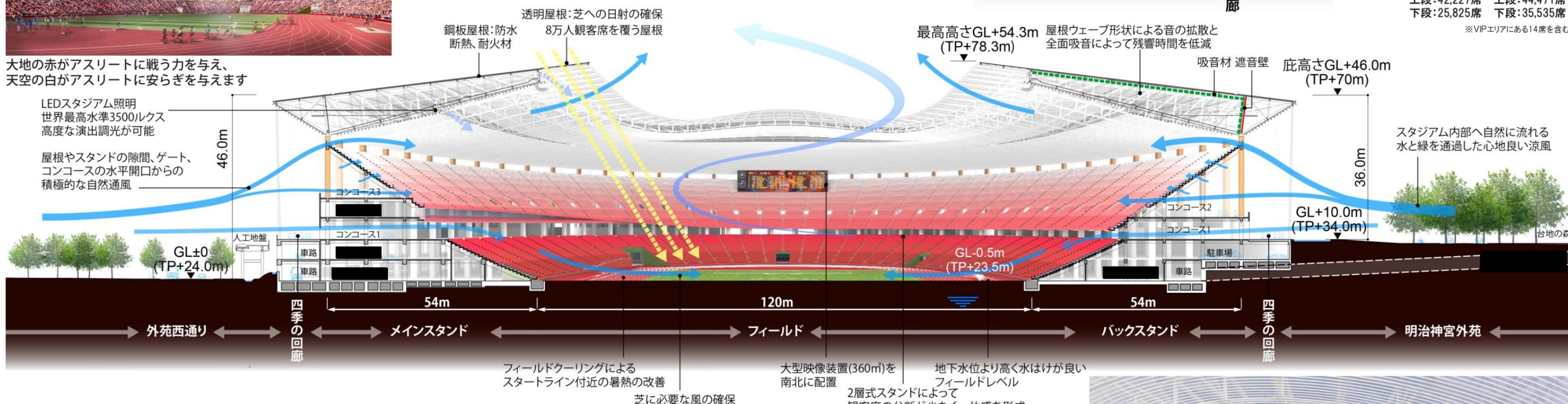
情熱の赤(茜色)から天空の白へとグラデーションに変化するスタンドの色彩、フィールドと観客席の近さによって、アスリートの躍動するエネルギーを直に観客に伝えます。▶27/45



大地の赤がアスリートに戦う力を与え、  
天空の白がアスリートに安らぎを与えます

LEDスタジアム照明  
世界最高水準3500ルクス  
高度な演出調光が可能

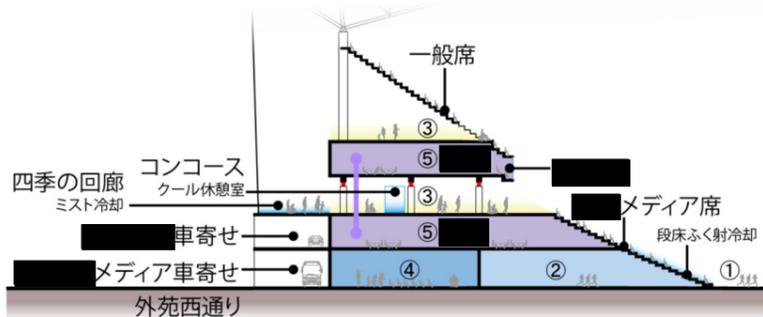
屋根やスタンドの隙間、ゲート、  
コンコースの水平開口からの  
積極的な自然通風



## 4 ホスピタリティとセキュリティを高める明快な断面構成

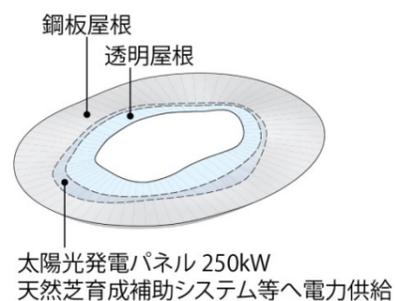
- ① 競技者はもちろんのこと、VIP、VIP席、ラウンジ等、メディア関係の配置や動線にも十分配慮した断面構成とします。▶40/45
- ② 積極的な自然通風、クールスポットの充実などによって、すべての人にホスピタリティの行き届いたスタジアムとします。▶27,40/45
- ③ 競技関係面積を充足させると同時に、機械室などをコンパクトにすることで、無駄のない施設構成とします。▶38/45

施設構成面積表	要求水準	提案施設	比率
① 競技等機能	24,000㎡	24,775㎡	103%
② 競技等関連機能	5,900㎡	5,976㎡	101%
③ 観覧機能	85,300㎡	84,498㎡	99%
④ メディア機能	3,100㎡	3,044㎡	98%
⑤ ホスピタリティ機能	17,100㎡	16,948㎡	99%
⑥ 防災警備機能	1,200㎡	1,188㎡	99%
⑦ 維持管理機能	31,800㎡	24,247㎡	76%
⑧ 駐車場等機能	26,000㎡	26,097㎡	100%
合計	194,400㎡	185,673㎡	96%



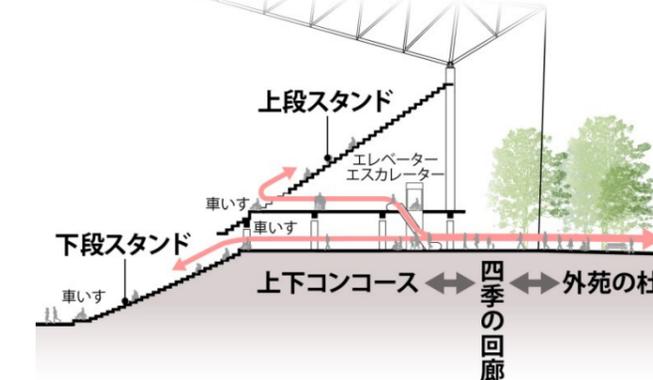
## 5 観客の興奮を表現する屋根ウェーブ

軽快なトラスの先端を上下させるだけで生じる屋根のウェーブが、観客の興奮を空間的に表現します。軽快で優美な屋根のウェーブは、スタジアム内の音環境にも貢献します。▶27,32,42/45



## 3 「四季の回廊」と2層式スタンドによるわかりやすい動線

外苑の杜に接し、内部動線のわかりやすさを誘導する「四季の回廊」と、明快な2層式のスタンドとコンコースによって、車いす使用者、障がい者、高齢者、子供連れ、外国人など利用する誰もが身体的のみならず、精神的な安らぎを感じる最高レベルのユニバーサルデザインを実現します。▶26,39/45



観客席内訳	オリンピック競技大会開催時	大会終了後(計画)
一般	57,395席	77,110席
車いす*	475席	453席
同伴者*	475席	453席
VVIP	150席	150席
VIP	1,400席	1,362席
メディア(実質席数)	2,022席(8,185席)	506席
合計	68,052席	80,006席
	上段:42,227席 下段:25,825席	上段:44,471席 下段:35,535席

※VIPエリアにある14席を含む